

昭和48年1月13日第三種郵便認可
HSK通巻509号
発行日/2014年8月10日(毎月10日発行)
編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光
北海道白老郡白老町字萩野 310-110
TEL (0144) 83-3537

HSK

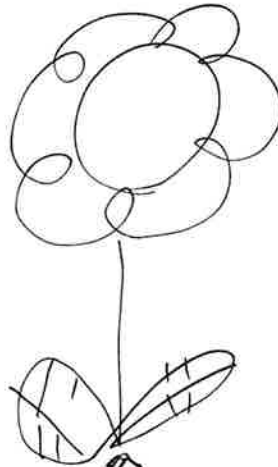
会報/215
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)
定価/1部100円(会費を含む)

2014. 8月号

ほほえみ



まふく
(くりーむ)



ひまわり



たけのこ

木保

白老町手をつなぐ育成会

後援会費の納入ありがとうございます

障がい者の作業所フロンティアを立ち上げたとき、5つの目標を決めました。その一つが元気な信号を出し続けることと、月に1,000通は発信するという目標でした。

それからは、何とか月内に会報を発行し続けました。その号数が今月で215号となりました。連番にする前が2年くらいありましたので、ほぼ20年出し続けた事になります。

20年もたつと43歳の若者も(?)63歳となりました。会報を読まれている皆さんの顔を思い浮かべながら書き続けてきましたが、頭のきれと体のきれが悪くなってきました。同じような内容が時々出て来た時は、強調していると考えて下さい。間違っても年のせいではありません。

この頃記事に困るときがあります。一言でも近況でもかまいません。何かご一報いただけましたらこれからは会報に載せたいと思いますのでご協力下さい。現在の発行部数は月1,200部です。

遅くなりましたが、後援会費はフロンティアを支えて下さる大事な資金に止まらず、会員と後援会員をつなぐ架け橋にもなっています。ちょっとした縁とゆかりで毎年会費を振り込んで下さる後援会員の善意は、フロンティアの頑張る力を支えています。

勝浦 雅子、加藤 泰男、加藤 武信、木村 亜耶、堀澤 正一、室蘭ヤクルト販売(株)
坪谷 真紀、大和 章、大和 政子、広地 紀彰、斎藤 英司、合野 美恵子
五十嵐省三、道山 晴美、得永 三枝子、佐野 節子、佐々木 淳子、松村 佳子
多原 良子、古俣 博之、民宿500マイル、曾根 光男、西條 林哉、小野 千恵子
(有)丸吾水産、本田 忠、本田 孜、大野 重夫、三上 育子、
NPOコミュニティシンクタンクあうるず

※敬称は略させていただきました

北海道手をつなぐ親の会20年の歩みの中に、初代会長の寄稿がありました。40年以上前に書かれたものですが、育成会の存在と目的を的確に表現しています。再録します。

『初代会長としての感想と期待』

初代会長 城戸 幡太郎

本会も今年で20年を記念することになりました。本年は日本国憲法公布30年に当たり、児童憲章公布25年になります。昔は10年一昔と言いましたが、今は5年一昔になったわけです。いづれにしても過去を反省して、将来に希望を抱く歴史的使命を自覚することと思います。これまでの教育は国民の能力を支配的国家的権力によって選別し評価することでありましたが、これからの教育は基本的に人間の権利を保証して、全ての国民にそれぞれの社会的役割を果たさせるための教育でなくてはなりません。人間の基本的権利としての最も大切なことは、健康で文化的な生活を営む権利と、それを保証するための勤労の権利と義務を負わせることで、教育はそのために、全ての国民にそのような生活力と労働力を身につけさせることで、そのために全ての国民はその能力に応じてひとしく教育を受ける権利が保証されなければならないのです。—続く—

志金のお願ひ(その1)

8月5日(火)の建設新聞に、フロンティア登別の公告を載せました。内容は、登別市中登別町88の2に、障がい者の就労施設を新築する。平屋延べ416㎡の規模で、設計は画建築設計、工期は2015年2月28日までとし、入札参加資格は道のB等級以上、胆振管内に主たる営業所を置き、問題が発生したときには1時間以内に対応できること、現場代理人を専任配置できる建設会社としました。

登別で障がい者団体等の関係者に呼びかけて第1回実行委員会を登別市民会館で開いたのが平成24年6月23日でしたので、およそ2年で新事業所の建設にたどり着いた事になります。計画を立ててから2年という年月を長いと見るか短いと見るかは別にして、この2年間あつという間にやってきた感がします。

国と北海道の補助金額が約6,100万円、自己資金は3,000万円、運転資金(2か月間、1円も支援費が入らないため)に300万円と考えています。運転資金は登別市の育成会が作業所設立のために貯蓄していた資金を寄付して下さる事になりました。

ここからが後援会員の皆さんへのお願いです。自己資金の3,000万円は、理事・評議員・育成会会員・後援会員全ての皆さんの『志金』で賄おうと考えてやってきました。資金のない育成会が、障がい者の様々な要求を実現するためには、みんなの知恵と力を合わせることが実現できる道なのです。

白老町手をつなぐ育成会が未来の子どもたちの働く場になればと考えて平成8年に喫茶ケサラと売店エスパスを始めたときも、『志金』を募り出店しました。10年前に通所授産施設フロンティアを開設したときも、6年前にグループホームを始めたときも『志金』を募り実現してきました。何月号かで、息子の定期預金の利息の記事を載せたのはこの日のためなのです。現在ゆうちょ銀行の定期預金の金利は3年以上で、0.04%です。そうすると1万円を貯蓄した場合、1年で4円の金利です。4円だと利子税はかかりませんが、10万円の定期だと40円の利子に8円の税がかかります。100万円だと400円の利子に80円の税がかかることとなります。

そこで、後援会から会員・後援会員の皆さんに訴えます。

『50万円を一口として、5年間無利子で貸していただきたいのです。』

『返済方法など詳しいことについては次号でお知らせします。』

実際に貸していただくのは12月中旬と考えています。

よろしくご検討下さい。

【グループホーム生活支援員、世話人の募集】

朝6:30~10:00、夕15:00~20:00で週3日~4日程度
(時間は面接時に要相談)

時給780円(早朝手当1日250円)→定期昇給有り(年20円)

【作業支援員募集】

月~金 9:00~16:00(休憩1時間)、土 9:00~13:00
時給780円、社会保険有り、退職金制度有り

ふろんていあ♡メール
Frontier

就労支援施設
フロンティア♡MAIL
2014年8月号
〒059-0922
白老町萩野 310-110
TEL・FAX 0144-83-3537

夏休みに突入!! フロンティアも大忙しです

「なんだか日中に子供や学生さんをずいぶん見かけるなあ…。」と思っていたら夏休みに突入していたのですね。例年ならば、この時期は学校周りの外販も減って少し小休憩という季節なのですが今年は、何か様子が違います!!

そうです。今年から始まったアイヌ民族博物館の「カフェリムセ」や登別の「古趣北乃博物館」では、夏休みに入り入館者が増えて忙しくなっています。これからお盆休みも関係なくシフト交代制でフロンティアの仲間も仕事に向かいます。施設外就労を始めて最初は戸惑いの顔を隠せず不安だった仲間たちも少しずつたくましい顔つきになってきています。



**ぜひ、この夏休みアイヌ民族博物館・北乃博物館にお越しください。
フロンティアの仲間が元気に一所懸命に働く姿を見に来てください!!**



突然の地震に驚きました！

7月8日午後6時過ぎ白老町で震度5弱の地震がありました。

地震があった時間帯はフロンティアは終了していましたがグループホームのほのぼの荘とホームそよ風では、ごはん時で入居者が席に着き始めた時でした。いままでなかった大きな揺れで不安になる入居者もいたり、ホームそよ風ではテレビと棚が倒れ食器が割れる被害がありました。全員けがもなく無事でした。丁度、前週にほのぼの荘、ホームそよ風では避難訓練をしたばかりだったこともあり、みんなスムーズに避難体制をとってくれて日頃の備えの大事さを痛感させられた出来事でした。



サマーチャレンジ ボランティア開催



白老町社会福祉協議会主催のサマーチャレンジボランティアが開催され、フロンティアにも喫茶茶連慈のパン工房体験に4日間で9名の小中学生がボランティアに来てくれました。今年は、体験を希望する方が多く急遽、小中学生に限定させていただきましたがたくさんの方が参加してくれました。なかには何年も連続して参加してくれる子もいたりしてうれしかったです。

第59回北海道手をつなぐ育成会全道 函館大会



↑
開会式は函館市民会館
函館奉行所



↑
貸し切りバスで市内観光



↑
七飯のラッキーピエロで楽しくお食
事です。(2日目)

五稜郭タワーの展望台



月1,000円の貯金で1年に1回宿泊旅行を
することに決めました。今年が第1回目で、育
成会の全道大会と兼ねて出かけました。朝5時
45分にフロンティアに集合して6時に出発で
した。こんな朝の早い集合でしたが、欠席もな
く何事もなく(?)函館まで行ってくることができ
ました。

障害者就労施設建設へ

白老の社会福祉法人ホープ



社会福祉法人ホープが建設する「フロンティア登別」の予定地＝中登別町

白老町萩野の社会福祉法人ホープ(片山のぶ子理事長)は来年3月末、登別市中登別町の道道洞爺湖登別線沿いに、障害者自立支援法に基づく就労継続支援B型事業所「フロンティア登別」を開設する。登別や白老で捕獲したシカの肉を活用したハンバーガーを販売する。施設利用者が調理や接客に携わる。同法人では「全ての障害者に開かれた施設にしたいと考えている。就労意欲の向上につながっていけば」と意欲を見せている。(粟田純樹)

来春、シカ肉ハンバーガー販売

B型事業所は、一般就労が難しい障害者に対し、雇用契約を結ばないで就労機会を提供する福祉サービスを実施する。

同法人は登別市手をつなぐ育成会、市障害者団体連絡協議会と連携し、「登別で障害者が働いて暮らしていけるように」との願いを込め、建設を決めた。

国、道の補助を活用する。運営方針として「地域の人や会員の力に付加価値を付ける」などを定める。総事業費は1億円を見込む。

施設は木造平屋建て防火サイディング張りの。床面積は416平方メートル。作業室や食堂、休憩スペースのほか、テラスなども完備する方針だ。

利用者定員は25人。指導員4人程度を配置する。仕事の内容は調理全般の補助や店舗清掃、接客など。勤務時間は午前9時～午後4時で、月額平均2万円を支払う計画だ。支援スタッフの募集も行う。現在、オープンに向けた準備を進めている。工事着手は8月を予定。

同法人運営の授産施設「フロンティア」の佐藤春光施設長は「登別は白老に比べ人口が2・5倍だが、通所事業所の受け入れは白老の半分しかない」と現状を説明し、「障害があっても地域社会の中で人間らしく暮らしていける条件を整えたい。地域の拠点として活用してもらいたい」と話している。



HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
発行日 2014年8月10日発行(毎月10日発行)
HSK通巻番号509号
編集人/北海道白老郡白老町字萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
TEL 0144-83-3537
会報/215号
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価/1部100円(会費に含む)